

## 世界に羽ばたけ！ 米山学友⑱

## 武士道に魅せられた日本研究者

インドネシアでは日本のアニメやマンガが大人気。日本語教育も盛んで、日本語学習者数は72万人と、韓国、中国に次いで世界第3位です。しかし、インドネシア語に翻訳された日本の文学作品は多くありません。米山学友のアントニウス・ラーマト・プジョ・プルノモさんは2010年9月、『ごん狐』や『走れメロス』など日本の名作を翻訳した『日本児童文学選集』を刊行。「日本を真に理解するためには、言語だけではなく、文学から思想や文化を学ぶことが必要」と語るプジョさんは、新渡戸稲造の著書『武士道』も翻訳・出版しており、インドネシアの日本研究者らの間で反響を呼んでいます。



アイルランガ大学日本研究学科の一期生と

## 武士の生き方に魅せられて

1976年、4人兄妹の次男として生まれたプジョさんは、文通や切手収集が好きな、もの静かな少年でした。海軍の軍人だった父は教育熱心で、「生活が苦しくても、お前たちの教育が一番大事だ。できる限り高く、学問を身につけなさい」というのが口癖でした。

高校生になり、第2外国語で日本語を学びはじめましたが、当初は「全然好きになれなかった」と言います。しかし、ちょうどそのころ、インドネシアで爆発の人気となった「おしん」や、日本のドラマがテレビ放映され、たちまち日本語に夢中になりました。

日本研究で最も歴史ある国立大学に進学すると、映画「七人の侍」や「忠臣蔵」などから、清廉潔白な武士の生き方、仁義を重んじ忠義を尽くす倫理観に魅了されました。卒業論文のテーマは赤穂浪士の切腹について。新渡戸稲造の『武士道』に出合ったのもこのころでした。

## 日本研究学科の設立のために

大学卒業後、東ジャワ州にある名門校、国立アイルランガ大学で日本語教員となりましたが、所属は「英語学科」。当時、東ジャワ州の大学には、日本を総合的に研究する学科がまだ一つもありませんでした。

2001年、大学に「日本研究学科」準備委員会が発足。政府から認可を得るためには、修士号取得者3人を含む6人の教員が必須です。学部卒のプジョさんは、修士号取得のために日本への留学を決意しました。

留学先は、新渡戸稲造の出身地・盛岡の岩手大学。研究生として1年間準備したのち大学院に合格し、米山記念奨学生にも選ばれました。世話クラブは盛岡北ロータリークラブ(RC)。「盛岡は寒いけれど、人の笑顔も気持ちも温かくて大好き」と、プジョさんは言います。ただ一つ、心が痛んだのは例会の食事でした。母国ではめったに食べられないごちそうを前に、「僕の分を貧しい人に寄付できたら」という思いがあったからです。

## 母国を襲った大津波

04年12月26日、インドネシアのスマトラ沖で巨大地震が発生、死者・行方不明者は22万人以上にのぼりました。プジョさんら留学生は、母国の人々が津波にのまれる映像を、ただ見つめるしかありませんでした。

その後すぐに、プジョさんは「被災者を救う会」を組織して募金活動を開始。義援金は215万円にのぼり、親を亡くした子どもたちが学校に通えるように、インドネシアで奨学金を設立。研究の合間をぬって奨学金を直接渡しに行き、子どもたちから受け取ったお礼の手紙はすべて翻訳して、日本の支援者に届けました。

「インドネシア人はもともと愛国心が強いけど、僕は米山記念奨学生になって、ロータリーから“愛情”や“わ

世界第4位の人口を有する東南アジアの大国、インドネシア。日本との経済関係は緊密で、日本語を学ぶ人も年々増加しています。インドネシアの日本文学研究者として将来を嘱望されている米山学友のプジョさんは、新渡戸稲造の『武士道』や日本の名作童話を母国語に翻訳。文学を通じて日本人のこころを伝えるとともに、同国の名門大学で、日本とインドネシアを結ぶ未来の懸け橋となる人材を育てています。



「かち合いの心」を学びました。僕が奨学金をいただいて勉強できるように、お金がなくて勉強できない子どものために手助けしたいと思いました」と話すプジョさん。その真面目な人柄にほれ込み、盛岡北RCの会員だった高橋恒男氏（現在は退会）は、米山記念奨学会へ多額の寄付をしたほどでした。

そのころ、アイルランガ大学では日本研究学科設立の準備が着々と進められていました。05年、念願の修士号を手にしたプジョさんが帰国し、新学科設立の最低条件はクリアしたものの、なかなか許可が下りません。その間、父の死も重なり、失意の底にあったプジョさんに朗報が届いたのは06年2月末のことでした。

同年8月、第1期生30人が入学。その輝く笑顔の前に、プジョさんはあふれる涙を抑えることができませんでした。ここでは日本語を中心に、日本文学・文化などの専門分野を学ぶことができます。今年設立5周年を迎えますが、学生たちは地域の幼稚園で折り紙や日本語のあいさつを教えたり、高校生の日本語コンテストを開催するなど、積極的に日本文化を発信しています。

## 未来の懸け橋のために

今、プジョさんは国費留学生として再来日し、東北大学博士課程に在籍しています。アイルランガ大学では学部課程だけでなく、大学院でも日本学を学べるよう研究科を新設する計画があり、博士号をもつ教員が必要とな

## プロフィール

アントニウス・ラーマト・プジョ・プルノモ さん

(2003-05 / 盛岡北RC)。インドネシア東ジャワ州スラバヤ出身。日本文学研究者。02年来日、岩手大学大学院修士課程に進学。帰国後、国立アイルランガ大学人文学部の日本研究学科設立に尽力。現在、国費留学生として再来日、東北大学大学院博士課程に在籍。



ったからです。研究の傍ら、日本の大学やNPOを訪ね、大学との協力体制づくりをしたり、現地の研究者に向け日本の情報を発信するなど、多忙な日々を送っています。

日本へ留学したインドネシア人の多くは日系企業などに就職しますが、「僕は教育を通じて国民の役に立ちたい」と、プジョさんは言います。未来の懸け橋となる人材を育てようとする姿を、教育熱心だった父も見守ってくれていることでしょう。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、(財)ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281

Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

## 米山学友が韓国ソウルRCの会長に就任



クラブの記念晩餐会に夫人と出席

1927年、韓国で最初に創立されたソウルロータリークラブ(RC)は、ソウルで唯一、英語を公用語とする国際色豊かなクラブです。7月、このクラブの会長に、米山学友の白哲鎬<sup>ベクチョルホ</sup>さん(1989-91 / 横浜鶴見西RC)が就任。白さんは、鶴見大学歯学部博士課程在学中に米山記念奨学生となり、91年に学位取得。現在は矯正歯科医院院長として活躍しています。「奨学金がなかったら、留学生活は大変苦しかったことでしょう。今も感謝の気持ちでいっぱいです。恵まれない人々や貧しい国への奉仕プロジェクトに励むことで、その恩返しをしたい」と白さん。日本のクラブとの活発な交流も目指しています。韓国出張の際は、ぜひソウルRCにお立ち寄りください。